

これより西津和野領

(島根県吉賀田野原 水源公園)



石州津和野藩御船屋敷旧趾

(桜尾本町)

石州津和野藩御船屋敷旧趾

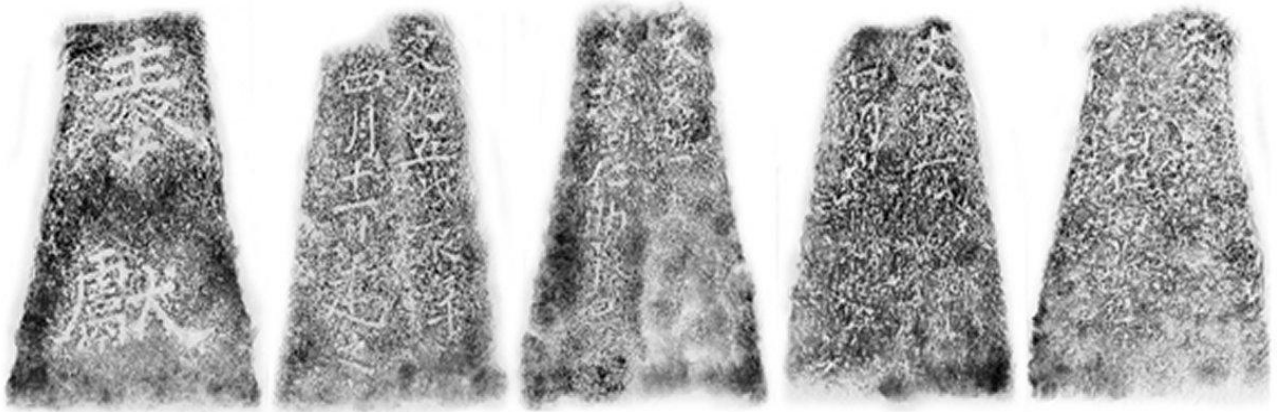
コノ地ハ寛永八年以降式百四拾年間ノ津和野亀井藩御船屋敷ノ趾ナリ。モト石見ヨリ上方ニ到ルニハ、海路遠ク馬関ヲ迂回ス。ココニ於テ亀井藩、ココ廿日市ノ一画ヲ芸藩ニ借り、御船屋敷ヲ構ヘ、以ツテ上方往来ノ要津トセリ。コノ一画ハ、東桜尾山側四十間、北側五十三間、西本陣側五十三間、南浜側五十四間内ニハ御館長屋紙倉アリ。マタ、桜尾山ヲ隔テテソノ東麓ニハ御船入アリ、常ニ御用船数多ヲ繋グ。而シテ石州ノ人士、日夜廿日市ノ人士ト接シ、所在ノ文化経済ニ寄与スルコト多年、今有志相謀リ、旧地ノ一角ニ碑ヲ建テ、由来ヲ刻シ、以テ後世ニ伝ウモノナリ。

昭和五十五年春吉日

宮島ロライオンズクラブ

堀田仁助寄進石灯籠

(佐方八幡神社)

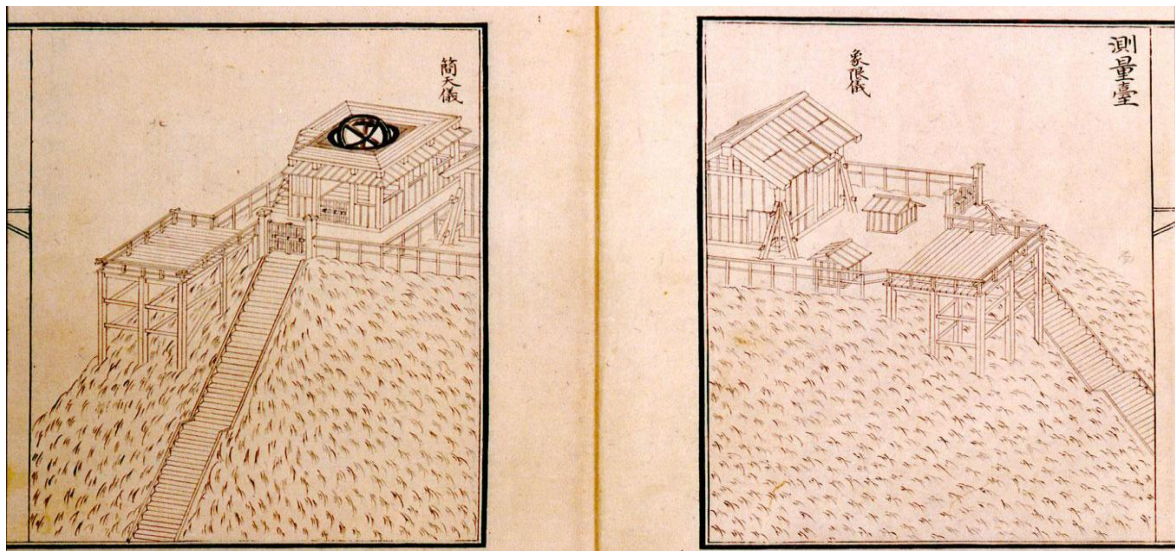


11

ほんれきどころごようやしき
頒曆所御用屋敷

天明2年(1782年)に浅草の浅草天文台(頒曆所とも)に移った。この時に「天文台」という呼称が初めて採用された。高橋至時や間重富が「寛政の改暦」に従事したのは牛込袋町・浅草時代であり、伊能忠敬が高橋至時の元で天文学・測量学を学んだのも浅草天文台であった。

堀田仁助も務めた曆所であろう。但し、天文方てんもんかた 渋川主水もんどてつけゆえ付故、忠敬とは一線を画しほとんど交流はなかったのではないかと推測。



浅草の鳥越神社前の蔵前橋通りと、江戸通りとの交差点南西角の植え込みに「天文台跡」の標識が建っている。

天王址
(串戸)



天王址由来

天王址(埃乃宮址)ニ就テ
昔神武天皇開國ニ方リ其御東征シ時御駐在アリ
シ地ニテ御手ヲ洗ハセラレシ川ヲ御手洗川ト稱フ南ニ
衣掛尾アリ(みその尾トモ稱フル地名アリ)此地御衣
ヲカシ更ヘサセラレシ處ト云フ(みそハ御衣ナリ)昔
串戸以南(一帶ノ地ヲ)合比ノ浦ト稱フ(旧記参照)
蓋シ其稱アルハあひの宮址アル所以ナリ(あひハ埃ナ
リ)然ルニ今(昭和二年)ヲ去ル約七百年即嘉禎年
間嚴島外宮社造營アリテ(此地)御前村ト改稱ナリ
(嚴島由来記参照)埃乃宮址(天王址トモ云フ)ハ串戸
ノ西端ニアリテ鳥居礎石其跡形ノ如ク存在ス始
メ天皇此地ニ御駐屯アラセラレシガ時々高潮襲ラ
惱ミアルヲ避ケサセラレ遂ニ其ノ西ニ玉座ヲ遷サセラレ
シト云フ(今ノ八坂神社之也)由テ此地ヲ大幸ト稱フ